

# 創立100周年

## 「地域医療エコシステム」確立を

「持続可能な医療の実現には、地域医療エコシステムが欠かせない」と強調する山形院長(今中雄樹撮影)



### 山形院長に聞く

倉敷中央病院(倉敷市美和)は長年にわたり、最先端医療を積極的に取り入れ、数々の難治療・手術に挑んできただけでなく、命に関わる急患を受け入れる「3次救急」を担ってきた。そんな国内屈指の高度急性期病院が、ICT(情報通信技術)を活用し、地域の患者を他の医療機関と連携して診る「地域医療エコシステム」の確立を目指し動き始めている。具体的な取り組みや背景について、先頭に立って進める山形専務院長に聞いた。(井上光悦)

エコシステムは英語で「生態系」と訳します。生態系が守られ、すばらしい地球環境が維持できているのは、動物や植物がそれぞれ自分の役割を果たしているからです。同じ考え方を医療に当てはめたのが私たちが提唱する「地域医療エコシステム」です。一つの医療機関で治療を完結させるのではなく、それぞれが得意とする機能・分野を生かし、みんなで協力して患者を診ていく仕組みです。

症状に応じて高度急性期病院、200床程度の地域密着型病院、診療所・クリニックを使い分け、自宅に戻った後も居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどと連携を図ります。地域に一つの大きな医療・福祉グループがあると思っただけだったら分かりますでしょうか。患者は地域のかかりつけ医である診療所を受診し、診療所で診られないものは、地域密着型病院へ。そこで手に

「地域医療エコシステム」の表現に向け、すでに動き始めています。地域の医療機関と情報、機器、人的資源を共有・活用する「地域連携プラットフォーム」の推進です。この医療機関でもスムーズに最適な治療を受けるには患者情報の共有が

### 共同資産

## ICT活用し連携 持続可能な診療実現

やまがた・せん 金沢大医学部卒。国立循環器病センター、京都大医学部付属病院、滋賀県立成人病センターなどの勤務を経て、1996年に倉敷中央病院脳神経外科主任部長、2016年4月から院長。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術指導医。73歳。

必須です。カルテ情報や画像を中心とした検査データを一元化し、閲覧できる仕組みをつくりました。「Kchart」と名付けたシステムには、倉敷市内を中心に180を超える病院や診療所が登録(2023年4月末時点、すでに1500人以上のデータが閲覧されています)。

機器の共有化も進めています。コンピュータ断層撮影装置(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)といった機器は高価で、各病院が自前でそろえても稼働率が低ければ赤字になってしまいます。倉敷中央病院は最先端機器を多く備えており、地域の「共同資産」として積極的に使ってもらっています。今後は検査試薬の共同購入なども進めていく予定です。

切れ目のない医療を提供していくには、地域全体の医療水準の向上も不可欠です。患者から「転院したくない。ずっと倉敷中央病院に入院させてほしい」と希望されたら地域医療エコシステムはとも成り立ちません。人的交流が大切だと思ひ、2020年、倉敷中央病院内に連携先の医療機関の看護師や医療ソーシャルワーカーのためのワーキングスペースを設けました。スタッフが転院予定の患者と面会しながら話し合いの場を持つことで、必要な情報を事前に把握できるようになりました。患者も転院後のイメージがつかみやすくなったと思います。

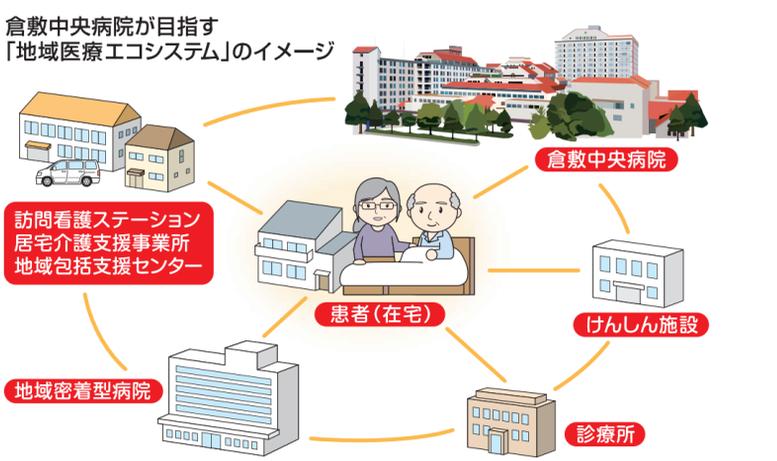
さらに疾患別の勉強会も定期的に開いています。「倉敷脳卒中チームケア研究会(K-CASST)」。「医療と介護のつどい」など、かかりつけ医やそのスタッフが最新医療を学べる貴重な機会になっています。

ではなぜ今、地域医療エコシステムが必要なのでしょう。一つは疾病構造が変化していることが挙げられます。高齢化が進み、手術が必要な病気よりも、高血圧症や糖尿病といった慢性疾患が増えています。国の方針もあり、治療の場は病院から在宅中心へと変化し、これまでの体制では十分対応できないのが現状です。

さらに持続可能な医療の実現を目指すためです。新型コロナウイルス感染症の患者がピークに達した時、当院には軽症、重症問わず患者が殺到し、パンク状態になりました。本来診るべき重症な救急患者まで手が回らない事態が起きたのです。そうした非常事態下でも地域医療エコシステムが機能すれば、乗り切れるはず。

倉敷中央病院が属する岡山県南西部医療圏は75万人という人口規模にもか

かわらず、公立の高度急性期病院はありませぬ。代わりに千床以上の民間病院である当院と川崎医科大学付属病院(倉敷市)が核となり、40の地域密着型病院と医療圏を形成してきました。20年以上前から医療連携を進め、病院間の信頼関係も醸成できています。地域医療エコシステムはその医療連携をさらに一歩進めるものです。倉敷中央病院が1世紀にわたって培ってきた経験と実績を活用しながら、「新たな医療のかたち」を発信していきます。



## 創立100周年 おめでとうございます

We Go Beyond 人と社会の豊かな未来へ。株式会社 システムズナカシマ

KURABUN logo and mascot rabbit.

Orchestrating a brighter world NEC logo and website URL.

エヴァホール (EVA HALL) advertisement with vertical text.